

仕事からの帰り道。

いつも職場から家までは夕飯を買いつつ帰るのだけれど、今日は違う。

今日はちょっとした冒険が待っている。

夢子は少しわくわくした浮ついた気持ちでスマホに表示させた住所へ向かっていた。

SNSで見かけた「マッサージ体験」。

なんでも体験である初回は無料らしい。

夢子はこういったマッサージやエステというものを経験したことがなかった。

仲の良い友達は割と頻繁にエステに通っていると聞いて、そういう習慣に憧れを持っていた頃だ。

とはいえ「無料体験」は怪しさしかないのだが、夢子の使う駅から近いこともあって勢いに任せて予約してしまった。

もしマッサージに満足できなくて継続する気がなければ、勧誘されてもしっかり断ろうと思いつつながら。

そのサロンが入っているらしいビルについてエレベーターに乗る。

古そうではあるが清潔なビルだ。それだけで少し安心した。

エレベーターから降りるとすぐにサロンの看板が置かれていた。

夢子はそこに書かれている名前と予約メールに書かれている名前を見比べる。ここで間違いなかった。

「こんにちはー…」

扉を開けて中を覗く。

落ち着いた灯りの室内はすぐ手前に簡単な受付があって、その先が個室になっているようだった。

「はい！」

中から声がして男性が駆け寄ってきた。

三十代ほどの清潔な見た目の黒髪の男性だ。

そこで夢子はふと思った。

特に指定はなかったが施術は男性が行うのか、それとも女性が他にいいのか。

夢子がそんなことを考えているうちに受付は済んで、その男性にウェアを渡された。

「ではこのウェアに着替えて、こちらの部屋に入ってお待ちください。下着も外してくださいね」

「え？」

さらりとそう言って、男は準備があると言い、また中へ消えてしまった。

（下着、外すんだ？ブラってことだよね？……え、普通そうなの？）

聞こうと思っても、こういったサロンの常識を持ち合わせていない自分がなんだか恥ずかしくて聞けなかった。

夢子は黙って更衣室へ入る。

素直に渡されたものを着た。一応、ブラジャーも外した。

先ほど指定された部屋に入ると、そこは華やかな香りで満たされていた。

フローラルな、でも微かに柑橘系っぽい香りもする。

「わあ…」

思わず声を上げると、ちょうど男も部屋に入ってきた。

「これ、いい香りですね」

「はい、……え？」

夢子がそちらを向いて、驚いた。

さっき受付してもらった男性と、もう一人、茶髪の男性がいる。

「この香り、リラックス効果があるんです」

「そうなんですか…」

「さあ、早速始めましょうか、こちらに仰向けに寝てください」

(二人でやるんだ…?)

戸惑ってばかりだったがもうここまで来てしまったら従うしかない。

夢子は黙って簡素な作りのベッドに寝転がった。

そういえばこのサロンに入ってから今まで、他の客の声がしない。

物音もしない。

今日が平日とはいえ客は夢子だけなのだろうか。

この密室に夢子と、男が二人。

他のスタッフがいるのかはわからないが、夢子の心がなんだかざわつき始めた。

顔にタオルがかけられて、すぐに施術が始まった。

頭上と足元から、肩、足と同時にマッサージされていく。

初めは緊張からかよく分からなかったが、優しい手つきに体の力が抜けてくると、(気持ちいいかも…)と考えられるくらいにはリラックスできていた。

マッサージされながらたわいもない雑談も始まる。

聞くと、このサロンはまだ本格的な営業はしていないとのことだった。

いまは体験でしか予約を取っておらず、営業の形を試行錯誤しているとのこと。

そして本来なら今日は女性のマッサージ師がいたが、病欠しているらしかった。

そこまで言われてようやく夢子は安心した。

ほどよく脱力してベッドに体を預ける。

華やかな香りに包まれて、ときどき強く、優しく、二人の手に体をほぐされる。

どれくらい経っただろうか。

雑談も減ってきて、夢子が眠気すら感じ始めた頃。

「肩、ほぐれてきましたね」

そう言った男の手が、鎖骨、脇、そして胸の膨らみまで移動してきた。

胸の脂肪に男の手が沈む感触がして夢子はタオルの中で目を開ける。

故意なのかそうでないのか分からない。

だけどそれは何度も繰り返された。

じわじわと指が近づいてくるのだ。

(マッサージってこういうもんなの？ ブラ取っちゃったからあんまり乳首に近付かれると…)

夢子の心配とは裏腹にその指は確実に近付いてきて。

服を巻き込み夢子の肌を滑ると。

布が引っ張られ、圧迫される。

(あ〜…やばい)

滑る指に合わせてあちこちに移動する布に、

乳首が倒されてしまう。

(た、勃ってる…、自分でも分かる)

タオルの下で目を見開く夢子の口が、焦りで薄く開いた。

その瞬間、

すりっ♡

一瞬、乳首に男の手が当たって、  
「んっ」  
息が漏れた。

(や、やば…、こんなことで声出して変態かと思われる！)

それでも直接的な刺激を受けた乳首はさらに芯を持ってむくむくと膨らんだ。

男の手はまた大きく上半身をマッサージし、肩から脇腹へ移動していく。

今までもそうして体を滑っていたのに一度性的な感覚を持ってしまうとその動きに体にちりちりと熱が生まれ始めてしまう。

気付けば下半身をマッサージしていた男の手も足の付け根のほうまで上がってきていて、軽く広げさせられていた。

内もものギリギリを親指が押して、あと数センチ上がってくれば下着に触れることもできてしまうだろう。

(これってわざとなの？それともマッサージってこうい

うもの？わかんないよ！)

そこでまた、上半身の手が乳首をかすめた。

「ふ、」

一瞬だけで、また離れて。

またかすめて。

「…っ」

離れて、かすめて。

「う、ん」

離れて、かすめて。

乳首は確実に勃っている。

それに引っ掛けるように手が滑る。

体がじっとしてられない。

「あ、あの…！」

夢子が顔にかけられていたタオルを取ろうと腕を上げると、

「だめですよお客さん」

その腕を掴まれた。

「え…？」



「体の力を抜いて寝ててください」

「でも、」

「気持ちいいでしょう？」

かりっ♡

「あッ♡」

明確に指で乳首を引っ掛かれ、乳首からじんわりと熱いものが広がる。

夢子の声は裏返った。

「大丈夫ですよ、マッサージなんですから。気持ちよくなっているんです」

そこで夢子は気付いた。

部屋に充満していた香りがあきらかに濃くなっている。  
むせかえるようなほどの華やかさだ。

「足はどうですか？」

太腿をマッサージしていた手も明らかにおかしい手つきになった。

鼠径部まで移動してきて、親指が当たっている。夢子

の股間に。

下着も借りたウェアも着ているが、男の指はその上から夢子の股間に押し付けられている。

周りの肉を撫で、揉み、  
その肉ごとクリトリスを挟むように圧迫した。

「ふっ、う」

夢子の腰が一瞬揺れる。

それと同時にベッドの端をぎゅっと掴んで耐えた。

(うそ、私こんな状況で感じてる？こんなのおかしいのに)

……………ぴんっ♡

「んあッ♡」

ふいに乳首を弾かれて体が跳ねる♡

ぴん、ぴんっ♡

ぴんっ♡ぴんっ♡ぴんっ♡

「ん、あ♡…ちょ、っ、」

布越しの鈍い感触♡

勃起上がったばかりの乳首にはちょうどいい刺激♡

すると夢子のクリトリスを肉ごと挟んでいた指は、  
ぐりぐり…♡

ぐり♡ぐり♡ぐり♡

「あ…ッ、あ♡」

指を押し付けるように動かし、

ぎゅう……♡♡

「んああっ♡」

クリトリスを強く圧迫した♡

呼吸が荒くなって♡

そうすると強い香りを思い切り吸いこんでしまう♡

頭がクラクラする♡

ぴんっ♡

ぴんっ、ぴんぴんぴんっ♡

ぐりぐりぐり…♡

ぎゅううう…♡

(こんなの絶対マッサージじゃない…！)

刺激にビクつく体を夢子がベッドを掴んでなんとか耐えていると、

ぎゅううう……♡♡♡

両乳首を服の上から挟み、伸ばされ、

ぎゅう♡♡ぐりい……♡♡ぐり……♡♡ぐりい♡♡

クリトリスも衣服ごと強く挟まれ圧迫したままこねられた♡♡

「んあ…ッ！♡♡」

ぎゅううう…♡♡♡

ぎゅっ、ぎゅっ♡ぐり、ぐりい…♡♡ぐり♡♡ぐり♡♡  
♡ぐり♡♡

「や、やめてください、だめ、あ、あ…ッ♡♡♡」

男たちは無言でそれ続けている♡

上半身を浮かせたり、かと思えば背中を強くベッドに押し付け腰を浮かせたり♡

なんとか快感を逃がそうともがく夢子の乳首とクリトリスを責め続ける♡

「だ、だめ、です…！♡そんな、あ♡あ……ッ、う、」

それでも快感は体に蓄積されていく♡

上半身が跳ね、腰をベッドに押し付けたとき、下半身にぐっと力が入って♡

「あ、…ッ！♡♡だめ、……や、ば♡♡……………うゝ

、」

夢子の体が縮こまって、

「ん` あ……！！♡♡♡」

それから弾けるようにのけぞった♡♡

(……うそ、イっちゃった、いま私この人たちの手でイっちゃった)

絶頂で力の抜けた体♡

ベッドの上で手足を投げ出し夢子はいまの自分の状況をぐるぐると考える♡

(マッサージに来たはずで、最初は確かにそうだったのに、しばらくしたら明らかに乳首とクリ触られて…)

パニックになってタオルの下で涙ぐんだ。

何も声を発しない男たちに不安になり夢子が体を起こすとタオルがはらりと落ちた。

そして夢子の視界にはマッサージ師たちの顔。

その表情は明らかに欲情したもので、それぞれと目が合うと夢子の体は固まってしまった。

二人は起きあがろうとした夢子の体を押し倒す。

それから、乳首を刺激していた黒髪の男が夢子の体に乗り上げてきた。

夢子が何かを言う前に夢子の上半身を腕で押さええ、  
ちゅっ♡

服の上から乳首にしゃぶりつく♡

「ひ、っ♡」

布越しではあるけれど乳首に濡れた男の口内の感触が  
して背中が栗立った♡

ちゅ♡ちゅ♡

「あ、」

ちゅう♡ちゅ…っ♡

「あ、う♡」

ちゅ、ちゅ、ちゅ、♡

「ん♡…ッ♡」

軽くキスしたり、ときどき吸い上げたり、規則的なリズムで食んだり♡

男の唇で勃ったままの乳首が形を変える♡

ちゅっ♡ちゅう♡ちゅ、ちゅ♡  
れろお…♡  
「や…ッ♡」  
れろお、れろ♡ちゅう…♡♡  
れろっ、れろっ、れろっ♡  
「んああ♡あッ♡」

男は夢子の体を押さえつけながら乳首を弄んでいる♡  
夢子がそのまだ優しい快感に悶えていると、  
ぐ…っ♡♡  
足元にいた男が服の上から親指でクリトリスを圧迫した♡

「あ……ッ♡」

さっきまで両側から肉で挟まれていたそれが今度は真上から押し潰される♡  
足がピンと伸びて指先が震えた♡

「お客さんのクリトリス、押し潰してるだけなのにぴくぴくって動いてますよ♡服の上からでも分かっちゃうくらい♡」

そう言われて夢子の顔が赤くなる♡

「だ、だめです、なんでこんな…、」

夢子が弱々しくそう言うと、乳首にキスしている男の手が服の中へ入ってきた♡

迷うことなくもう片方の乳首へ伸びて、萎えていたそれを

かりかりかり♡♡

「あゝ♡♡」

高速で引っ搔いて勃たせると♡

ぴんぴんぴんっ♡♡

また指で弾く♡♡

「あゝッ、ああ♡♡な、…、それ、やめ…！♡♡」

ぴぴぴぴぴぴぴぴ…！♡♡♡

更にその指が早くなって♡♡

「あはは、お客さんの体びくびくしてる♡クリももっとしていいですね♡♡」

ぐりぐりぐりっ♡♡ぐりぐりい……♡♡♡

クリトリスを潰す指も強くなってしまった♡♡

「んあゝ♡♡ん、うゝ♡♡あ、あ、あゝ♡♡」

ちゅ♡ちゅっ♡♡ちゅ、ちゅ、ちゅ♡♡

湿った服の上から乳首にキスされ、

ぴぴぴぴぴぴぴぴっ♡♡

勃起上がった乳首を指で弾かれ、

ぐりぐり…！♡♡ぐりぐりい、ぐりぐりぐり♡♡



クリトリスは逃げ場もなく押し潰され、こねられる♡  
♡

「……っ！♡♡だ、め♡♡だめなの、それ…、おねが、  
……ッ♡♡♡」

「何が駄目なんです？」

「………、ッ、…♡♡♡」

この部屋の濃い香りを思いっきり吸い込んでそこで一  
瞬押し黙る♡

しかし男たちは、

ぢゅううううッ♡♡♡

今までキスしているだけだった乳首を強く吸い、

ぎゅうっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ

♡♡

弾いていた乳首を指で挟み根元を圧迫して、

ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり…！♡♡♡

押し潰していたクリトリスをこねくり回されるから♡

♡

「………〜〜〜〜〜ッ♡♡♡イ、っちゃうから、イ  
っちゃうからだめ、え…！♡♡♡……………あッッッ！  
♡♡♡」

夢子は男がのしかかっているというのに弾かれるように背中を浮かせ、ピンと足を突っ張っていった♡♡

「さ、次もいきますよ～♡♡」

背中を浮かせていた夢子の体がベッドに落ちると同時に、足元にいた男が夢子のウェアをずるりと下着ごと引き抜いた♡♡

「お客様の生クリ、マッサージしましょうね♡♡いったばかりだから気持ちいいですよ～♡♡」

「え…！」

クリトリスはまだまだトクトクと脈打っている♡

その状態で触られるのが恐ろしくて、夢子は抵抗しようと体を振った♡

もちろん敵うはずがない♡もう一人の男はまだ夢子の体にのしかかっているのだ♡

「あ～♡ぐりぐりしたからクリトリスまで濡れてますね♡♡」

「や、……ッ♡♡」

「濡れた状態のほうが気持ちいいでしょ？♡♡ほら、ぐりぐり～って♡♡」

「あゝ……ッ！♡♡♡」

押さえられていても体が跳ねる♡♡

男の言う通り、濡れたクリトリスが親指で押し潰され…♡♡

指から逃げるようにあちこちに倒されてしまう♡

「や、め…っ♡♡ひ、っ♡♡あゝ♡アっ♡」

「腰もまんこもビクビク…♡気持ちよさそうで嬉しいです♡」

その間も夢子にのしかかっている男は、

ぢゅっ♡ぢゅっ♡……ッッ♡♡♡

乳首に吸い付き、

ぎゅっ♡ぎゅっ♡ぎゅっ♡

ぐりぐりっ♡♡こりこりこりこり♡♡

もう片方の乳首を挟み、こねて♡♡

逃げたい♡♡

こんなことおかしくて、逃げたいのに♡♡

気持ちいいことから逃げたいのに♡♡

ベッドの端を掴んでいた夢子の手はだらりと落ちて足はピンと伸びて♡♡

快感を全て受け入れようとしている♡♡

何かがおかしい♡

まだイったばかりなのに♡♡

萎える隙もなく体が快感を拾ってしまう♡

「は…、あ、ッ♡♡うう…ッ♡♡」

「あれ？またイきそうですか？♡♡いいですよ、気持ちよくなりましょう♡♡」

ぐりぐりっ♡♡ぐ、ちゅ、ぐちゅ♡ぐちゅぐちゅぐちゅ♡

クリトリスをこねくり回す男の手が激しくなる♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅっ♡♡♡ぐり♡♡ぐりいっ♡♡ぐりゅっ♡♡ぐりゅりゅっ♡♡

溢れる愛液を掬い上げてまた戻ってきて♡

ぬるぬる滑るクリトリスをしつこく指が追いかけて回す♡♡

ぢゅぷっ♡♡ぢゅうっっ♡♡♡

乳首を吸う唇も激しさを増した♡♡

吸い上げ、唇で食んで♡♡

ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡

乳首を挟む指は乳首を引っ張りその先で圧迫している  
♡♡

「ひ、…い” ♡♡♡う”、ツ” ♡♡♡…………ツ、い、く  
♡♡♡い、っちゃ……あ” ♡♡♡…………は、ツ” あ”  
っ！！♡♡♡」

また体が跳ねた♡♡

跳ねて、ガクガクと痙攣して♡♡

それでも男たちの責めは止まない♡♡

クリトリスを押し潰していた男は夢子の腰を掴むとそ  
こへ唇を寄せて、

れろお♡♡れろっ♡♡れろっ♡♡

分厚い舌で皮ごとクリトリスを舐め上げ、くすぐるよ  
うに舌を往復させ♡

乳首を吸っていた男は服を捲り上げ隔てる布のなくな  
った乳首に、

ぢゅぶっ♡♡しゃぶりついて、

べろっ♡♡べろべろべろべろべろっ♡♡♡

激しく乳首を舐め回し♡♡

もう片方は立てた人差し指の爪で、

かりかりかりかりかりかりかりかりかり……♡♡♡

とくすぐる♡♡

「や…ッ” ！♡♡やめ、ッ”♡♡♡あ、あ”ア”っ♡♡  
あっア”♡♡♡やめて、おねが、…ッ”♡♡は、アああ  
”っっ！♡♡♡」

立て続けに与えられる快感にじっとしてられない♡  
それでも男たちは夢子の体を押さえつけその体を責め  
続ける♡

夢子は手も足も指をぎゅうっと握りしめて♡♡

「…………う、そ、またイク、いく…ッ！♡♡♡い”、く  
…………！！♡♡♡」

体の中で快感が弾けて喉をそらせた♡

(なんで…！？こんなに連続でいったことなんてない、  
のに、)

まだ、男たちは止まらない♡♡

クリトリスをしゃぶる男の指が一本、夢子の濡れたそ  
こへ入ってきた♡♡

「あ……、！？」

圧迫感はない♡それでも夢子のそこはぎゅうっと縮こまる♡♡

男はそのままクリトリスにしゃぶりついてきた♡

今まで舐められていた感触とは違う、クリトリスの全体を皮ごと男の口内が包む♡♡

「…………っ♡♡♡」

ぞく…♡

その感触に全身が震えた♡

(ずっと体が疼いてる…♡♡♡こんなのおかしい……♡♡)

喉をそらせたまま、クリトリスへの刺激に顔を歪ませていると、

「お客さん、」

のしかかっていた男に呼ばれた♡

男は夢子の頬に手を添え自分の方へ向かせると♡

ちゅ…、♡♡

夢子のだらしなく開いた口に唇を重ね♡♡

ちゅ、ちゅる♡♡

深く合わせると舌を侵入させてきた♡♡

ちゅ…、ちゅろ、ちゅ♡♡

舌に舌が絡まる♡♡

そのまま引いて、また入ってきて♡

夢子の舌を余すことなく堪能しているようだ♡

「ふ、あ……、♡♡あ♡♡ ………え”、あ”ッ”！♡  
♡♡」

夢子はキスされながら一瞬大きくビクついた♡♡

その男の指が夢子の両乳首に添えられている♡

次にその指がどうするのか予想がついてしまって、ぶ  
わりと鳥肌が立つ♡

その予想通り、男の指は

ぐりぐりぐりぐりっっ♡♡♡

強く夢子の乳首をこねて♡♡

「ふう” う…ッッ！！♡♡♡」



夢子の体が大袈裟に震えるから、ベッドがカタカタと音を立てた♡

「おまんこ締まりましたね♡乳首敏感だなあ♡♡」

そう笑った男の指も動き始めた♡

たったの一本なのに何度かイカされたナカは敏感に指の感触を感じ取ってしまう♡♡

キスされて乳首をこねられひくつかせると、男が指をどう曲げているかまで分かってしまうのだ♡

その指が付け根までしっかりと埋められ♡曲げたまま抜けて行って♡また突っ込まれる♡

「ふ♡♡う`♡ん、う`♡む、あ`ッ♡♡」

体の奥から止まることなく湧く快感に口が開く♡

その隙間から男の舌が侵入して夢子の舌を逃すまいと絡まった♡♡

ぐ、ちゅ、ぐぽっ♡♡

ぐぽっ♡♡ぐぷ、ぐちゅ♡ぐぽ♡ぐぽっ♡♡

濡れた夢子のおまんこを指が往復して♡

「う`っ♡あ`、ん♡♡…ッ`♡♡んあ`ア♡♡」

それから男は♡

ぷちゅ、っっ♡♡

「はアあ`…ッ`♡♡♡」

クリトリスを唇で強く挟んだ♡

あむ♡ぢゅ、ぢゅむ♡♡

「う、あ♡♡ああ、っ♡♡やああ……ッ♡♡♡」

挟んだまま唇で揉まれる♡

潰されたクリトリスがまたドクドクと脈打って、男の指を締めた♡♡

「あ♡ッ♡♡あア♡、…ッ♡♡や♡アん♡♡…ん、う♡♡ふ♡♡ッ♡♡ッ♡♡♡」

舌も乳首もクリトリスも♡♡

しつこく快感を与えられる♡

足の先から、ベッドへ押し付けられている頭のとっぺんまで、気持ちいい感覚で満たされていく♡

ちゅろ、ちゅ、ちゅっ♡♡れる、れるお♡♡♡

ぐりぐりぐりぐりぐりっ♡♡♡ぐり、こりこりっ♡♡ぐりぐりっ♡♡♡

ぢゅっ、ぢゅむっ♡♡ぢゅむぢゅむ、ぢゅむっ♡♡

ぐぽっ♡♡ぐぽっぐぽっぐぽっ♡♡ぐぢゅぐぢゅぐぢゅっ♡♡

「…………ッ♡♡また、イク♡♡……、な、んでえ…♡♡♡ふ、う♡うう…、ッ♡♡♡やだあ、イきたく、

な…」

夢子の泣きそうな声に男たちは答えない♡

夢子の体を押さえつけ夢子の気持ちいいところをひたすらに責め続けた♡♡

「イ、く…！♡…う、あ♡♡♡」

ぢゅ……っっ！！♡♡♡

キスしていた男が夢子の舌をきつく吸い上げた♡

呼吸ができない♡♡

「あ……♡♡♡あ、あ♡♡♡……………〜〜〜〜〜  
〜〜ッッッ♡♡♡」

そのまま夢子はガタガタと体を震わせた♡

それでもまだ、

男たちは止まらなかった♡

「指増やしますね♡おまんこの中マッサージしまし  
う♡♡」

「あう…ッ♡♡♡」

指が入ってくるだけなら、まだ良かった♡

「…………、ひ、あ、っ、あゝ …ッ！？」

ごりごりごりごりごりごりごり……！！♡♡♡

男は指をナカの天井に押し付け、そこをまるごと揺らすように震わせ始めた♡♡

「あゝ …！！♡♡♡あ、アっ！？ま、ってえゝ …♡♡♡」

その上さっきまで食んでいたクリトリスには、  
ぶちゆるるう……っ♡♡♡と、むしゃぶりついてくる  
♡♡

ごりごりごりごりごりごりごりごりごり…っ！！♡♡♡  
ぶちゅっ♡♡ぶちゆるるるるっ♡♡♡ぢゅうう～～  
～～ッ♡♡♡

「ま、あゝ ッ♡♡♡やめ、うあゝ 、あアあ…ッゝ ！！♡♡  
♡」

あまりに強い刺激にまた腰が浮くのに♡

のしかかっている男がその体を押さえ込んでしまう♡  
♡

男は更に乳首を挟み引っ張ると、  
こりこりこりこりっ♡♡ぐりぐりぐりぐりっ♡♡  
こりっ♡♡ぐりぐりっ♡♡こりこりっ♡♡ぐりぐりぐ  
りっ♡♡  
その伸びた薄い皮膚をまたこねくり回す♡♡

「やああ …！！♡♡♡んああ”、あ…ッ”！♡♡あ”  
ああ”ア”…ッ”！！♡♡♡」

ごりごりごりごりごりごりごりごり…っ！！♡♡♡  
ぶちゆるるるる……♡♡♡ぢゅうっ♡♡ぢゆる、ぢゅ  
る、ぢゆる、ぢゅううう～～ッ♡♡♡  
こりこりっ♡♡ぐりぐりぐり…！♡♡♡ぐりっ♡♡ぐ  
りっ♡♡ぐりいっ♡♡

（またイってる、のに！やめてくれない、気持ちいいの  
やめてくれない…！）

ガクガクと激しく痙攣する夢子の体を男たちは体重を  
かけてベッドに縫い付け♡

「や、やめ”、…ッ”！♡♡♡ん” あああ…ッ”♡♡♡

は、アッ、あッ……！！♡♡♡も、やだぁあッ！！♡♡♡」

ごりごりごりごりごりごりごりごりごりごり…っっ！！♡♡♡

ぢゅるるる、ぢゅるるっっ♡♡♡ぢゅうう〜〜〜っっ♡♡♡

ぐりっ♡♡♡ぐりっ♡♡♡ぐりっ♡♡♡こりこりこりこりこりこりこりこりこりっっ♡♡♡

（体、おかしい、ずっと気持ちいいのおかしい、もうイきたくない、解放されたい…！）

「いッ、く……！！♡♡♡またいくううッ、…ッッッ♡♡♡んッ、あッ ああッ アアアッ ツッ！！♡♡♡」

イく瞬間、体中から汗が噴き出た♡

心臓がとんでもない速さで鳴って、手も足も震えている♡♡♡

男たちが夢子から離れたから、これで終わったんだと思った。

でもそうではなかった。

「じゃあ次は体の中までマッサージしていきましょうね♡♡」

夢子の足元へ移動した黒髪の男がそう笑って夢子の足を広げる♡

「え…、」

慌てて体を起こそうとすると、今度はもう一人の男が頭側へ移動してきて夢子の体を押さえつけた♡

「もっと気持ちよくなれますからね♡」

「…ちが、もう、いいです、」

「そんなこと言わずに♡」

「もう無理、」

夢子が押さえつけてきた男の腕を払おうともがいている隙に、

ぬ`、ぢゅ…っっ♡♡♡

「うあ`♡♡♡」

男の硬く膨らんだちんぽが入ってきてしまった♡♡  
夢子を逃げられないように一気に奥まで♡

「あ……ッ♡♡♡あ、は…♡♡♡」

体がビリビリする♡  
ちんぽを入れられただけで♡

(体、おかしい、)

「…ふ、あゝ、あ♡♡」

ちんぽが埋まってるだけなのに体が強張って♡  
おまんこから淡い快感が体中へ染みていくようで♡  
夢子は思わず歯を食いしばって身震いした♡

「気持ちよさそうですね、嬉しいです♡ここも好きでしょ？」

ぐりっ♡

無防備になっていたクリトリスを親指で押し込まれて♡

「ひ…いゝッッ！♡♡♡」



その瞬間、夢子の体が一際激しくビクッ！と跳ねた♡  
じわりと染みた快感の上澄みだけが弾けるような、初めての感覚だった♡

「あ、軽くイってます？」

「は、あ…、……？」

混乱のままに快感に怯える夢子を見て男は「はあ、」  
と溜め息を吐く♡

「お客さん、気持ちいいことに弱すぎ♡もっとぐりぐり  
しちゃお♡♡」

「……ッ！！」

また思いっきり親指でクリトリスを潰され♡♡

「んアっ、ああ…ッ！♡♡♡」

夢子はベッドの上で体を強張らせる♡♡

「すご♡イキまんこ痙攣たまんね～♡♡」

「あゝ、アあ、…ッゝ、♡♡♡」

「もっかい♡」

「や、あゝ…！♡♡う、うゝッ♡♡♡」

「ちんぽ締めてクリでイけ♡♡」

ぐちゅ、ぐちゅちゅっ♡♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ…！！♡♡♡

「ふっ う うう…！！♡♡♡」

「ああ～～、いい♡♡お客さん最高…♡」

「お客さん、乳首も気持ちよくしますよ～♡♡」

頭上にいた男が夢子の上半身に覆い被さる♡

ぢゅ…ッ♡♡

勃ったままの乳首にしゃぶりついて♡

～～～っっぱ♡♡♡

吸い上げて♡解放する♡♡

「あッ あ…ッ！♡♡♡」

背中が浮く♡♡

鋭い刺激で体が暴れてしまう♡♡

ぢゅ……ッ♡♡♡

…っっぱ♡♡♡

ぢゅうう……ッ♡♡

……ッッッっぱ♡♡♡

「ひ、あ、…ッ♡♡♡ア あ、あ…ッッ あ♡♡  
♡」

ぢゅ……ッッ♡♡

乳首が吸い上げられて♡♡

敏感な皮膚が伸ばされて♡♡

…っっぽ！♡♡♡

音を立てて解放されて♡

戻り切る前に♡

ぢゅう…ツツ！♡♡♡

また吸われて♡♡

～～っっぽ！♡♡♡

解放されて♡♡

「うゝ …ツ、うゝ、んゝ ～～～ツゝ ♡♡♡」

…ぢゅうっっぽ！♡♡ぢゅうっっぽ！♡♡ぢゅうっっぽ！♡

♡ぢゅうっっぽ！♡♡

「ひあ、あゝ …ツゝ！！♡♡♡」

ペースが上がる♡♡

夢子はまた体をガタガタと震わせた♡♡

「お客さーん、こっちも忘れんなよ♡♡」

「あゝ ア…ツゝ！！♡♡♡」

「ざっこいクリちゃん、ぐりぐり～って♡♡♡」

「あゝ ツツうゝ ♡♡♡んゝ あああアゝ ♡♡♡だ、めえゝ …！！♡♡♡」

「まーたイってる♡♡」

そう言われても、もう夢子は自分の絶頂が分からない  
♡

ずっと気持ちいい♡

それが終わらない♡

男たちに触られているところから快感が湧き上がって  
きてそれが絶え間なく全身を満たしていく♡♡

「俺も楽しませてね♡♡」

夢子が処理できない快感に目を白黒させていると、男  
は腰を引いて、

ぱんっ♡♡

と打ちつけた♡♡

「…………ツ、♡♡♡」

奥に感じた衝撃に夢子の顔は引き攣る♡♡

「気持ちいい？」

「や、やだ……」

「気持ちいいだろ♡♡♡」

ぱんっ♡♡♡

「やだ、やだぁ……♡♡♡」

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡  
ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

男がピストンを始める♡♡

その間も乳首はしゃぶられたままだし、クリトリスは  
押し潰されこねられたままだ♡♡

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡  
ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

「や、ア …！♡♡♡あ”っ♡♡アッ♡♡ア…ッ”ア”  
！♡♡」

ぐりっ、ぐりゅっ、ぐりゅ♡♡♡ぐりぐりぐり、ぐり  
いっ♡♡♡

ぢゅっっぽ！♡♡ぢゅっっぽ！♡♡ぢゅっっぽ！♡♡  
ぢゅっっぽ！♡♡

「ん”っ”あ”、ア”♡♡♡あ、あ”ッ”…！♡♡  
♡」

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡  
ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

「……ッ” あ” ♡♡♡や、…ッあ” ♡♡♡アアあ” っ、  
あ…ッ” っ” ！♡♡♡」

ぢゅっっぽ！♡♡ぢゅっっぽ！♡♡ぢゅっっぽ！♡♡  
ぢゅっっぽ！♡♡

ぐりゅりゅりゅ、ぐりゅっ、ぐりぐりぐり、ぐりゅり  
ゅっっ♡♡♡

「〜〜〜ッ” 、う” ♡♡♡……、う” 、あ、あ” 、ッ  
♡♡♡」

カタカタ、と夢子の全身が細かく震えて♡

男は腰を浮かせピストンを早めた♡♡

ぱんぱんぱんぱんぱんぱん…ッッ！！♡♡♡

「やアア” ああ…ッッ” ！！♡♡♡や、め、……ッ” ！  
！♡♡♡」

悲鳴に近い夢子の声すら楽しむように男は舌舐めずり  
をする♡

そのまま二人は夢子を追い込んでいった♡♡

ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん…ッッッ！！  
♡♡♡

「あゝ、…………ツ”！！♡♡♡は、ア” ツツ！！♡♡♡  
や、いく、いく……！！♡♡♡ひ、…………ツ”、〜〜  
〜〜〜〜ツ” ツ” ツ”！！♡♡♡」

押さえつけられた夢子の体が、それでも絶頂に跳ねた  
♡♡

ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん…ツツツ！！  
♡♡♡

ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん…ツツツ！！  
♡♡♡

「ア”、…………ツ”、♡♡♡」

まだピストンは止まらない♡♡  
夢子は泣きながら頭を振る♡

「や……、だあゝ、…ツ”♡♡♡も、おかし、い…、う  
ゝ、ツ”♡♡♡こ、こわ、い…、あゝ、ツ” っ” ツ”♡  
♡♡」

「あ〜〜〜〜♡出そう…♡♡♡」

…ぱんっ！！♡♡♡  
ぱん、ぱん…っ♡♡♡

男が何度か夢子の体に埋め込むように腰を打ちつけた  
♡

ずるりと萎えたちんぽが出ていく♡

男はすぐにベッドから降りたが、夢子はもう一人の男  
に体を起こされた♡

体験したことのない絶頂にくたくたの体を四つん這い  
にさせられる♡

夢子は逃げなかった♡

自分の体の変化に怯えながらも、ここから逃げるとい  
う選択肢を持ってない♡

体はまだ疼いている♡

「俺のちんぽもお願いしますね～♡♡」

ぬ`ちゅ、…っ♡♡

「ッう`うう……！♡♡♡」



遠慮なく入ってきた未射精勃起ちんぽに、夢子の上半身はベッドへ倒れ込みそうになった♡

しかし、前に移動していた男に抱えられ抱きしめられてしまった♡

手もつかない、支えは抱き留めてくれた男の胸と回された腕だけ♡

夢子は素直にしがみつく♡

すると男は夢子の額にキスをし、そのまま誘うように夢子のまぶた、頬、唇へ降りていった♡

ちゅ♡

れる、ちゅぷ♡

唇を何度か啄んで舌が入ってきて♡

あやすようなキスに夢子が目を細めると♡

いつの間にか乳首に伸びてきていた手が

ぎゅー〜……ッ♡♡♡

と乳首を挟むから♡

「アゝ ……ッゝ ッゝ ♡♡♡」

夢子の体がぶるぶると震えた♡

「乳首だけでも浅イキできるんですか？♡まんこすっご  
い狭くなる…♡♡」

そのまま男の腰は動き出してしまった♡

ぱこっ♡ぱこっ♡ぱこっ♡ぱこっ♡

浅いところをならすみたいに、男の腰は軽く動く♡

「ふっ、う♡♡う” ん、んッ♡♡あ、っ♡♡」

キスされながらちんぽの感触に声をあげると、

れるお…♡♡れるお、れるれる♡♡

れら♡れら♡ちゅうっ♡♡ちゅ、う” ～～…っ♡♡

「んあ” ♡♡っ、う♡♡む、ッ♡♡」

それを塞ぐように男に口内を弄ばれ、

ぎゅ～～～……………ッ♡♡

乳首を圧迫されて♡

ぐりぐりぐりぐりぐりっ♡♡

こりこりっ♡♡カリカリカリカリカリカリカリッ♡♡

♡♡♡

「っっ、ふう” ……ッ！♡♡♡ん” 、んんうッ” ♡♡  
♡」

指先で様々な刺激を与えられた♡♡

「もう一回乳首でイこうか、ちんぽいっぱいパコパコし  
てください♡っておねだりまんこなろうな♡♡」

「…………ツ、」

男は片手で夢子を抱き締めながら舌を吸い上げ、

ぎゅううう…………♡♡♡

乳首を二本の指で挟み♡

ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりっ♡♡♡

左右に捻って♡

こりこりこりこり…っ♡こりこりこりこりこりこりっ

っ♡♡♡

根元を挟んだままこねくり回し♡

カリカリカリカリカリカリカリカリッ♡♡♡

爪先で引っ掻いた♡♡

「うゝ あゝ 、 ツッアああアゝ ！！♡♡♡」

悲鳴に近い声を上げてお腹がぎゅうっ♡と締まるのを感じる♡♡

背中が引き攣って怖くて♡男に夢中でしがみつく♡

「そんなにおねだりされちゃったらちんぽ動かしてあげないとですね♡♡ほら、イキ乳首されながらおまんこちんぽされましようね♡♡」

ばこっ♡♡

男が深くまでちんぽを押し込んで♡♡

ばこっ♡♡ばこっ♡♡ばこっ♡♡ばこっ♡♡ばこっ♡

♡

腰を引いて、夢子のお尻に打ちつける♡♡

「あゝ…ッ♡♡♡ん、うゝ♡♡アあゝっ♡♡は、ッ

♡♡」

ぐりぐりぐりぐりぐり♡♡♡こりこりこり、カリカリ  
カリカリっ♡♡♡

その間も乳首を責める指は止まらない♡♡

男は夢子にキスしながらまつ毛の触れそうな距離で夢  
子のとろける目を見つめている♡♡

「んゝッ、ふっ♡♡うゝうゝ♡♡♡あゝう、んっ♡  
♡♡……、い、やあゝ♡♡んあゝッ♡♡また、イゝ……  
ッ♡♡♡」

「……すごい効き目♡♡またイクって、何回目？お客  
さん覚えてます？」

「……ッ♡♡わ、わかん、な♡♡いゝ、……ッゝ  
♡♡♡ひ、うゝ♡♡……、ず、と、きもち…ッ♡♡  
♡」

「伊っても伊っても気持ちいいんだあ、最高じゃないで  
すか♡♡」

■続きは製品版にて♡